

春彼岸の由来

「彼岸」とは、こちら側の岸(現在私達が生きている世界)に対する向こう側の岸、つまり極楽浄土を意味します。行事としての「春彼岸」は春分の日をはさんで前後三日間の計一週間に



2009・春
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

行われます。法然上人が浄土宗を開く上で師と仰いだ中国の善導大師が「中日には太陽が真西に沈むので、日没の彼方にある極楽浄土を想い、敬慕の心をもつべきである」と説いているように、太陽の沈む方角に向かって、極楽浄土に想いをいたし、今の自分を育んでくださった先祖に感謝し、極楽浄土に往生したいと決意を新たにすることが「お彼岸」なのです。またこの一週間は日常の生活を反省し仏道と信仰の実践週間としても意味づけられています。ぜひ、このお彼岸には、ご家族そろってお念仏をと念え、先立たれたご先祖を偲び、感謝の気持ちをささげてください。

◇お守りして「いただきます」

私達は、毎日いろいろな食物を食べていのちを支えています。食物はすべて生き物です。いのちがあったはずで日本人の出す残飯の量は世界一とも言われていますが、「もったいない」という思想があった日本人が、いつからこんな無駄をするようになったのでしょうか。「物が豊かになって、感謝のこころを忘れたから」と言う人もいます。

「ここで住職からの一言。毎日の食前、食後に手をあわせ」ありがとういただきます。南無阿弥陀仏「こちそうさまでした。南無阿弥陀仏」とみんなで言



ってほしいのです。そして「これを毎日続けてほしいのです。いのちをいただいている、しかも天地はじめさまさまざまな力がそれを育み、多くの人々の労があつてこそ、この自分が食べることができ、だから感謝をしなければならぬ。これは「いただきます」「うんどうさま」の習慣の中に育まれてきます。他者に対する思いやり、優しいさも芽生えてくるでしょう。今日、道徳観の欠如が問題となっておりますが、その原因は、家庭での教育がなされていないことにあると指摘されています。こうしたことを改めるためにも、食前食後の言葉を家庭の中で実践し、伝えていきたいと思います。春のお彼岸、お墓参りの終わつた夕食の時にたまには家族そろつてこんなことをみんなで話し合えたらいいですね。



☆住職の僧階が進級します☆

この度、法問寺住職が僧正という位に進級します。それにもない来る四月六日(月)午前十一時より大本山増上寺における「僧正叙任式」にて任命されます。当日は法然上人御念大法要の開催中であり一般檀信徒の参詣も大歓迎です。ご都合のつく方は増上寺本堂にて住職の叙任式を見る事ができますのでご参詣いただければ幸いです。

○花便り(鈴木裕子)

大変ご無沙汰致しました、花便り・再開です!

「こうみょう」自体が、昨年休刊状態でしたので、皆さんに境内のお花をお届けできなかつたこと、残念でした。今回は、



門のすぐ脇のお花、ふたつ、ご紹介しますが「水仙」と「クリスマス・ローズ」です。水仙は、本堂の裏手の墓地にもあり、そちらは、まだ、だいぶ咲いています。そして、クリスマスローズは、花期が長いので、これからしばらく楽しめると思います。赤紫のほうは地植えですが、白は鉢植えです。いずれ、地植えにしたいと思えます。また、小さな(安価な?)ポット苗を少し買いました、うまく育ててくれたら、色々なクリスマスローズをご覧頂けるようになるといいな!と、思っています。これからお花のいい時期になっていきます、境内にも四季折々にか、お花を...と、思っていますので、お墓参りの時には、ちょっと、一回りして、探してみてください!

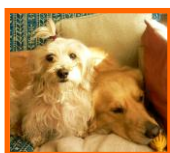
○ワン便り(鈴木裕子)



さて、昨年3月より、我が家に、新しいワン家族が増えました!

ブリーダー(犬を繁殖している人)の、破綻により、放棄された(つまりは捨てられ始末されてしまう)、ワイヤー・ヘアード・ダックスフンドの女の子、「サラ(娑羅)」(私が名付けました)です。レスキューされた時には、体重は3キログラム、毛もほとんど抜けて臭いもひどくて、1週間以上毎日洗って臭いもなくなったそうです。レスキューされた所で、4キロ近くまでなって、避妊手術をうけ、里親を募集していたのを、私が

見つけました。まずは、お見合い(ごちらの家庭環境などを見るため、連れてきてくれます)そして、先住犬がいる場合は、その子との相性もあるので、お試し期間としてお預かりして、「OK!」となつたら、正式譲渡となり、サライは、我が家の家族となりました。アンジイともとても仲良しです。推定年齢が4〜5歳でしたので、アンジイのお姉さん、ということになります(笑)。早いもので、この3月7日、満1年になります。サラは、名前も、誕生日もわからない子だったので、この日を、我が家でのサラの誕生日にしました。皆さんにも、お会いすることもあると思えます、どうぞよろしくお願ひ致します!



◇編集後記 住職◇

お休みしていた「こうみょう」を再刊いたしました。休刊中には先代住職の遷化など法問寺にとっても重大な事がありました。また季節の行事の合間には「法問寺のこと」をお知らせしたいとおもいます。今年から東京教区(お寺の区分け)の教化団理事という役職につくことになり、毎月数回、芝増上寺境内にある教務所に会議のために出席しております。前に先輩住職から「五十歳をすぎると身の回りにいるいるなことが回ってくるよ」と言われた事を切実に感じ、微力ながら務めております。平成二十三年の「宗祖法然上人八百年大遠忌」を目前に控え、すでに始まっている浄土宗行事を支える仕事になります。各種行事は浄土宗檀信徒のための行事も多くあり、皆さまにも参加していただけるようご紹介していきます。とりあえず六月には栃木県益子のお寺に参拝し陶芸を体験するという一日バスハイクがあります。興味のある方は「一緒にしませんか?」南無南無